

1 カリキュラム・ポリシー

農学部の教育理念・基本方針ならびに学位授与方針に基づいて、入学者（学習者）が主体的に学習に取組み、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けている。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した者が備えているべき資質も重視している。

環境農学科については、以下の方針に基づいて教育課程を構成する。

- ① 全学共通科目群として「ユニバーシティ・スタンダード科目群」を設置する。
- ② 環境農学科専門科目群については、1年次生が履修する100番台科目、2年次生以上が履修する200番台科目、3年次生以上が履修する300番台科目、4年次生が履修する400番台科目に分類する。科目番号（ナンバリング）によって履修順序を示し、学年進行に伴って基礎的知識から専門的知識の修得へと体系的に進んでいくように配置する。
- ③ 国際共通語としての英語運用力を高めるとともに異文化を理解し、国際的なセンスを身につけるため、全員が2年次に4ヵ月間、海外留学を実施する。また、全員が北海道か鹿児島にある本学施設で実習を行う。
- ④ 専門科目の核となる科目、またプロジェクト型学修を行う科目については、3から4単位科目として学生が集中的に学べるようにする。
- ⑤ 3年次からは生態系科学領域、持続的農学領域のいずれかに所属して学修を深める。
- ⑥ 卒業研究で、4年間の学修の総まとめを行い、卒業時における到達目標を達成しているか、社会人として求められる能力が身についているかを確認させる。

2 カリキュラムの特徴

1 環境農学科科目には、必修科目、選択科目があります。

必修科目 <small>（講義・実験・実習・演習）</small>	環境農学科の学生が学ぶうえで最も基本となる科目。必ずすべて修得すること
選択科目	各自の必要に応じて履修する科目 <small>（生産農学科科目・先端食農学科科目・ユニバーシティ・スタンダード科目・他学部開講科目を修得した場合は、選択科目として卒業要件に含まれる）</small>

2 学外プログラム

●環境農学科では、2年次に全員が海外プログラム（カナダまたはオーストラリアのどちらかを選択）および国内プログラム（北海道または鹿児島どちらかを選択）に参加しなければなりません（「海外プログラム参加条件」(p.88) 参照）。

- ① **海外プログラム**：カナダプログラムの授業は主にバンクーバーアイランド大学で行われ、一部玉川大学ナナイモキャンパスを利用します。第3セメスター（3月下旬～7月）または第4セメスター（9月～12月）のどちらかに派遣されます。オーストラリアプログラムの授業はクイーンズランド大学で行われ、第4セメスター（9月～12月）に派遣されます。

※派遣期間は、日本および各国の暦や諸事情から、年によって若干変更されることがあります。

- ② **国内プログラム（「農場実習Ⅲ」）**：北海道プログラム、および鹿児島プログラムは第3セメスター終了後の夏休みに実施される予定です（履修登録および認定は第5セメスター）。

■派遣先と派遣時期の決定方法

- 第2セメスターに希望調査を行い、必要に応じて人数調整のうえ、案が決定されます（10月～11月を予定）。希望に偏りがある場合は、学科が調整を行う場合があります。結果は文書にて、学生本人と保証人にお知らせする予定です。

■3 領域配属

- 環境農学科には、「生態系科学領域」「持続的農学領域」の2領域があります。第5セメスターから領域に配属されます（配属後に領域を変更することはできません）。
 - ① 領域配属は定員制です。これは学生が特定の領域に偏ることを避け、教育の質を維持するためです。具体的な人数はあらためて連絡します。
 - ② 「担任指導」などの時間を利用して、領域に関する情報提供をするほか、第3セメスター終了時に領域紹介ガイダンスを行う予定です。詳細はあらためて連絡します。
 - ③ 第4セメスターに領域配属の希望調査を行い、必要に応じて人数調整の後、配属案が決定されます。

3 卒業要件

卒業要件を充足した場合は、学位として学士（農学）が与えられます。

- (1) 修業年限をみたすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉	玉川教育・FYE科目群： 「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」 自然科学科目群：「化学入門」「生物学入門」「解析学入門」
〈必修選択科目〉	言語表現科目群： 「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」のいずれかを含む ELF科目8単位以上
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記（4）で示した必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること

人文科学科目群：4単位以上	社会科学科目群：4単位以上
自然科学科目群：6単位以上	学際科目群：2単位以上
言語表現科目群：8単位以上	
- (6) 環境農学科科目について、次の必修講義科目14単位を修得していること

100番台科目：「環境と農業」「生物科学」「環境農学概論」「生態学概論」
200番台科目：「生物統計学」
300番台科目：「地球環境と生態系」「持続的農業論」
- (7) 環境農学科科目について、次の必修科目の実験・実習・演習科目（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を除く）21単位を修得していること

100番台科目：「基礎化学実験」「農場実習Ⅰ」「基礎生物学実験」「農場実習Ⅱ」
200番台科目：「環境農学実験」
300番台科目：「農場実習Ⅲ」「環境農学研究Ⅰ」「環境農学研究Ⅱ」
400番台科目：「環境農学演習Ⅰ」「環境農学演習Ⅱ」
- (8) 環境農学科科目の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を修得していること

4 卒業までの単位配分

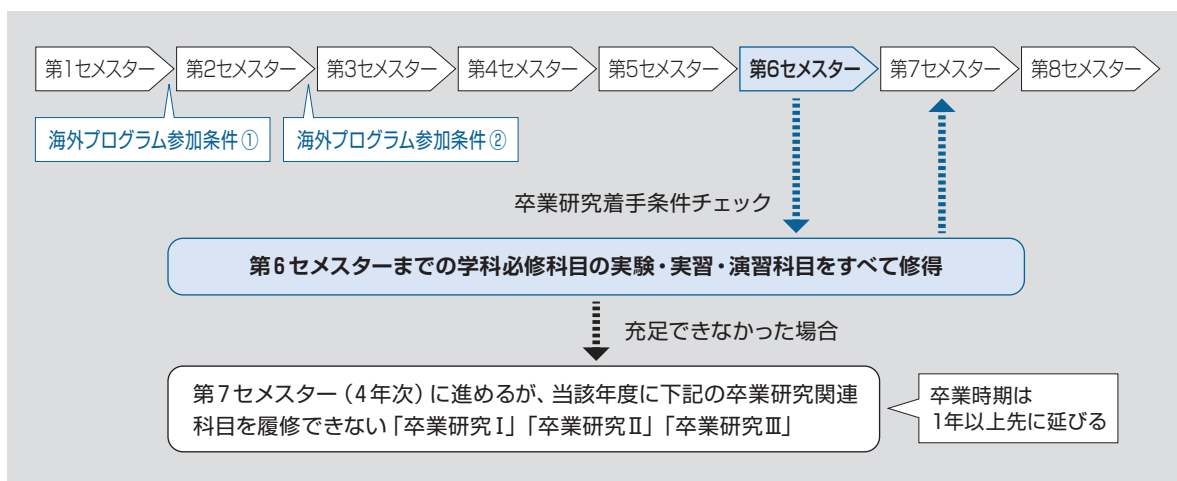
- 卒業に必要な最少単位数は、第1セメスターから第8セメスターまで、合計124単位で、環境農学科の場合その内訳は次のとおりです。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位
	人文科学科目群	4単位以上
	社会科学科目群	4単位以上
	自然科学科目群	6単位以上
	学際科目群	2単位以上
	言語表現科目群	8単位以上
		合計24単位以上
環境農学科 必修科目	必修講義科目	14単位
	必修実験・実習・演習科目	31単位（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を含む）
選 択 科 目	環境農学科 選択科目	
	他学部・他学科開講科目	
	ユニバーシティ・スタンダード科目	
	他大学との単位互換科目	
累積修得単位		124単位以上

5 履修条件

- 第6セメスター終了時に単位修得状況の確認が行われ、履修条件を満たさない場合は、卒業研究に着手できません。

■第6セメスター（3年次）終了時における卒業研究着手条件チェック



海外プログラム参加条件

- ⊕ 第1セメスター終了時に学修継続条件が警告（1回目）の場合は、2年次の海外プログラムには第4セメスターにのみ参加できる。
- ⊖ 第2セメスター終了時に学修継続条件が警告（2回目）の場合は、2年次の海外プログラムには参加できない。その後第4セメスター終了時まで、GまたはF科目を履修し直し、当該年度の春学期および秋学期ともに、累積GPAを2.00以上にすることができた場合、第5セメスターから海外プログラムへの参加が可能になる。

6 履修上の留意事項

- ① 「比較文化論」は海外プログラム参加時に履修するようにしてください。
- ② C・F評価科目の再履修制度のうち、C評価を受けた科目の再履修についてはp.48を参照し、履修登録前に必ず所属学科教務担当の指導を受けたいうで、適切に手続きを行ってください。
海外プログラムにおける科目は、再履修制度の対象に含みません（「比較文化論」を除く）。
- ③ 時間割（時間帯・教室など）については変更等をお知らせする場合がありますので、UNITAMAおよび大学7号館の掲示を十分確認してください。
- ④ 「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」は夏季休暇等を利用して実施されます。これらの科目の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。「インターンシップⅠ」は希望者が多数の場合、ガイダンス出席者に対し抽選または審査を行う場合があります。「インターンシップⅡ」はECO-TOPプログラムの受講許可を受けた学生のみが履修できます。
- ⑤ 「自然環境総合演習」はECO-TOPプログラムの受講許可を受けた学生のみが履修できます。
- ⑥ 「農場実習Ⅲ」は2年次の夏季休暇等を利用して実施されます。この科目の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。履修登録・単位認定は第5セメスターに行います。